

統一的な基準による財務書類 (新地方公会計制度) (令和6年度決算)



幕別町企画総務部政策推進課

1 「統一的な基準」による財務書類の整備

現在の地方公共団体の会計処理は、現金の収入支出に着目した「現金主義・単式簿記」の方法が採用されています。この会計処理は現金の動きがわかりやすく、予算がどのように使われたかを明確に表示できるメリットがある一方で、建物や道路などの資産や地方債などの負債の状況、行政サービスを提供するために発生したコスト情報が不足していると言われています。

そこで、地方公共団体の会計にも「発生主義・複式簿記」による企業会計的手法を活用した財務書類の整備が求められています。

現金主義会計

- ◎ 現行の予算・決算制度は、予算の適正・確実な執行を図るという観点から、議会での議決を通して、単年度ごとに現金収支を管理する単式簿記による現金主義会計を採用

(例) 現金100万円で購入した車1台の場合

<単式簿記> 現金支出100万円のみ記帳

<複式簿記> 現金支出とともに資産の増減を記帳

資産の増加	資産の減少
(借方)車両100万円	(貸方)現金100万円

補完

発生主義会計

- ◎ 複式簿記による発生主義会計を採用することで、ストック情報(資産・負債)、見えにくいコスト情報(減価償却費等)を把握することができ、財政運営の効率化・適正化を図る観点において、単式簿記・現金主義会計を補完

国が示した基準(旧総務省方式)に従い、幕別町では、平成13年度(平成12年度決算分)から、決算統計データに基づく「幕別町バランスシート(貸借対照表)」を作成・公表してきました。このことで、一定の限界はありますが、幕別町のストック(資産、負債等)の状況や、現金支出を伴わない減価償却費などを含めた行政コストを把握できるようになりました。

しかし、全国で複数の作成基準(総務省方式改定モデルや基準モデル、その他のモデル(東京都方式など))が存在することに加え、同一の作成手法であっても、固定資産台帳の整備状況の有無により資産計上額に差が生じるため、団体間での比較が困難などの課題がありました。

そこで、平成26年4月に固定資産台帳の整備を前提とする本格的な発生主義の導入と、複数混在する作成方法の標準化を図るため、国から「統一的な基準」に基づく地方公会計の整備方針が示され、平成27年1月には全ての地方公共団体に対し、「統一的な基準」による財務書類の整備が要請されました。(原則として、平成29年度までに作成)

これを受け、本町では、平成29年度(平成28年度決算分)から「統一的な基準」による財務書類を作成することとなりました。

2 国から示された「統一的な基準」とは

ここでは、平成26年4月に国から示された「統一的な基準」に基づく地方公会計の整備方針と、今まで複数存在していた財務書類の作成基準とを比較して説明します。

■旧総務省方式

: 個々の複式仕訳によらず、既存の決算統計データを活用して貸借対照表及び行政コスト計算書を作成するモデルのこと。「地方公共団体の総合的な財政分析に関する調査研究会報告書」(平成13年3月)等で示された。

■総務省方式改訂モデル

: 公有財産の状況や発生主義による取引情報を、個々の複式仕訳によらず、既存の決算統計データを活用して財務書類4表(貸借対照表及び行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書)を作成するモデルのこと。「新地方公会計制度研究会報告書」(平成18年5月)で示された。

■基準モデル

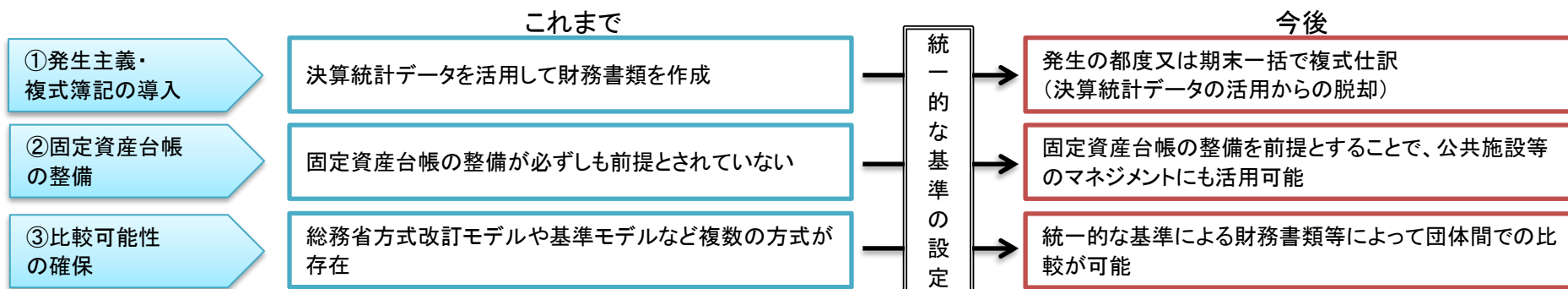
: 個々の取引等について発生の都度又は期末に一括して発生主義により複式仕訳を行うとともに、固定資産台帳を整備して財務書類を作成するモデルのこと。「新地方公会計制度研究会報告書」(平成18年5月)で示された。

■その他のモデル

: 日々の会計処理と連動して複式仕訳を行う「東京都方式」や「大阪府方式」などのモデルのこと。

「統一的な基準」とは

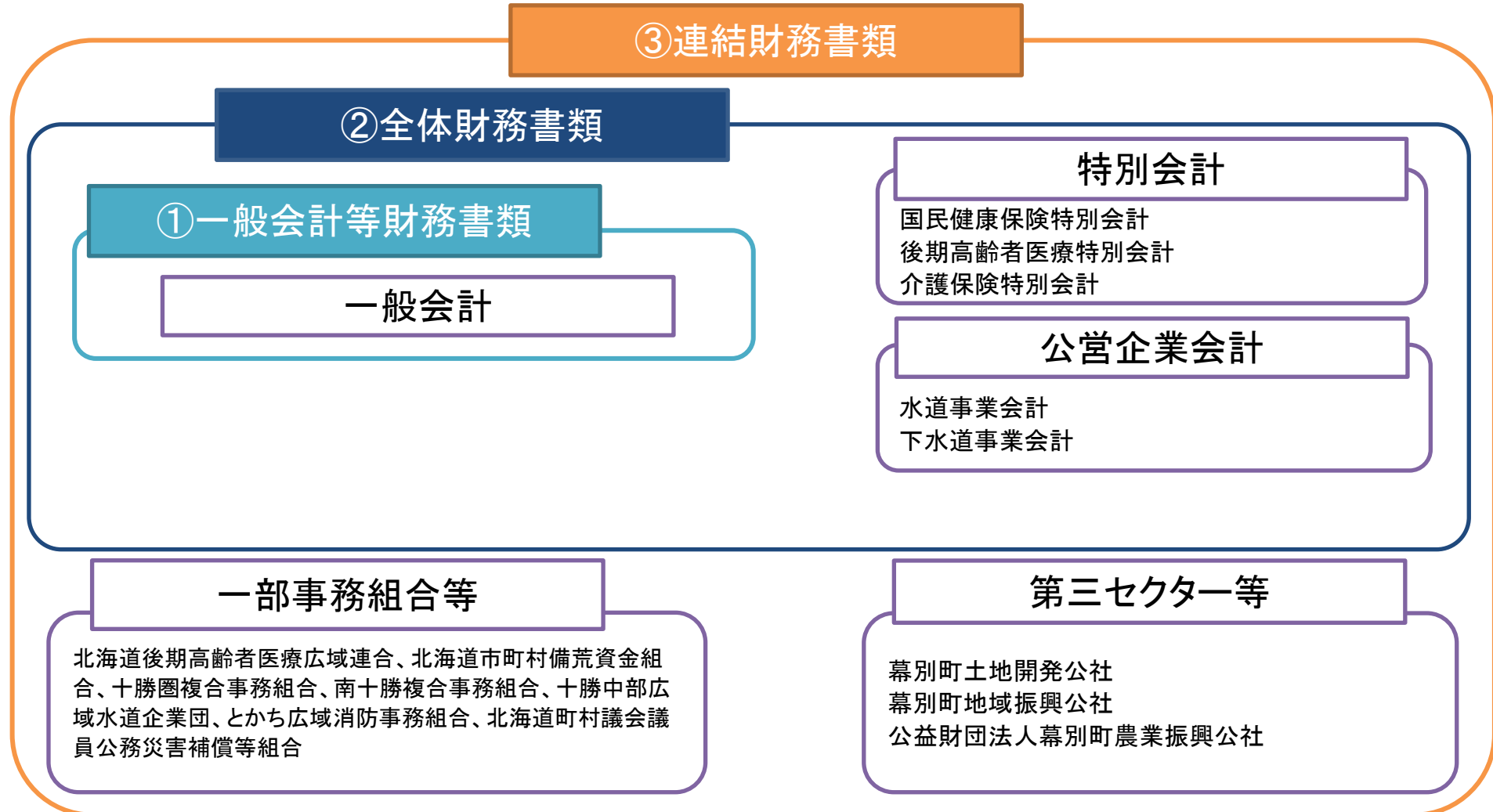
個々の資産ごとの状況を記載した固定資産台帳の整備を前提とした、発生主義・複式簿記を本格的に導入するもの。



3 対象とする会計等の範囲

本町では、以下の3種類の範囲で「統一的な基準」による財務書類を作成しています。

- ①一般会計等財務書類：一般会計と一部の特別会計(本町では該当なし)を統合したものです。
- ②全体財務書類：①に、他の特別会計と公営企業会計を統合したものです。
- ③連結財務書類：②に、一部事務組合や広域連合、第三セクター等を統合したものです。



4 財務書類4表の説明

本町が作成した財務書類は、以下の4種類の表で構成されています。(一般会計等財務書類、全体財務書類、連結財務書類の3種類の範囲で、それぞれ作成しています。)

- 貸借対照表
基準日時点の財産の状況を表しています。
- 行政コスト計算書
会計期間中の経常的な行政サービスにかかった費用等を表しています。
- 純資産変動計算書
会計期間中の純資産の変動を表しています。
- 資金収支計算書
活動を「業務」・「投資」・「財務」に分類し、1年間の資金の流れを表しています。

■貸借対照表

(単位:千円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	74,473,567	固定負債	16,852,558
有形固定資産	70,528,946	地方債	15,299,688
事業用資産	28,693,820	長期未払金	22,425
インフラ資産	41,446,847	退職手当引当金	1,518,268
物品	2,310,139	損失補償等引当金	12,178
無形固定資産	2,104	流動負債	1,941,920
投資その他の資産	3,942,517	1年内償還予定地方債	1,792,842
流動資産	2,538,151	未払金	5,891
現金預金	352,670	賞与等引当金	143,186
未収金	16,523	負債の部 合計	18,794,478
短期貸付金	27,595	【純資産の部】	
基金	2,142,030	固定資産等形成分	76,643,192
徴収不能引当金	△ 668	剰余分(不足分)	△ 18,425,953
資産の部 合計	77,011,718	純資産の部 合計	58,217,240
		負債及び純資産の部 合計	77,011,718

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

■資金収支計算書

(単位:千円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	13,684,031
業務収入	15,589,483
臨時支出	-
臨時収入	-
業務活動収支	1,905,452
【投資活動収支】	
投資活動支出	3,035,321
投資活動収入	1,863,766
投資活動収支	△ 1,171,554
【財務活動収支】	
財務活動支出	1,813,636
財務活動収入	1,191,240
財務活動収支	△ 622,396
本年度資金収支額	111,502
前年度末資金残高	241,168
本年度末資金残高	352,670

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

■行政コスト計算書

(単位:千円)

科目	金額
経常費用	17,818,869
業務費用	11,364,887
人件費	2,820,161
物件費等	8,402,995
その他の業務費用	141,732
移転費用	6,453,982
経常収益	931,413
使用料及び手数料	295,631
その他	635,782
純経常行政コスト(△)	△ 16,887,456
臨時損失	-
災害復旧事業費	-
資産除売却損	-
損失補償等引当金繰入額	-
臨時利益	28,024
資産売却益	23,830
その他	4,194
純行政コスト(△)	△ 16,859,432

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

■純資産変動計算書

(単位:千円)

科目	合計	固定資産等形成分	剰余分(不足分)
前年度末純資産残高	59,792,430	78,902,840	△ 19,110,410
純行政コスト(△)	△ 16,859,432		△ 16,859,432
財源	15,284,242	15,284,242	
税収等	11,097,181		11,097,181
国県等補助金	4,187,061		4,187,061
本年度差額	△ 1,575,191		△ 1,575,191
固定資産等の変動(内部変動)		△ 2,259,648	2,259,648
有形固定資産等の増加		1,733,478	△ 1,733,478
有形固定資産等の減少		△ 4,095,820	4,095,820
貸付金・基金等の増加		951,844	△ 951,844
貸付金・基金等の減少		△ 849,149	849,149
無償所管換等	-	-	-
その他	-	-	-
本年度純資産変動額	△ 1,575,191	△ 2,259,648	684,457
本年度末純資産残高	58,217,240	76,643,192	△ 18,425,953

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

5 貸借対照表（一般会計等財務書類の場合で説明）

貸借対照表は、町が所有する年度末時点の財産（土地・施設・現金）を「資産」として左側に表記し、この資産のうち、今後負担すべき債務（借金など）を「負債」として右側に表記しています。「資産」と「負債」の差額を「純資産」といいます。今までの負担により形成された町の財産を示し、右側に表記しています。

3つの関係は、「資産＝負債＋純資産」となり、各項目が変動した場合でも、左右の合計は必ず一致することから、「バランスシート」とも呼ばれています。

■ 貸借対照表

（令和7年3月31日現在）

（単位：千円）

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	74,473,567	固定負債	16,852,558
有形固定資産	70,528,946	地方債	15,299,688
事業用資産	28,693,820	長期未払金	22,425
インフラ資産	41,446,847	退職手当引当金	1,518,268
物品	2,310,139	損失補償等引当金	12,178
無形固定資産	2,104	流動負債	1,941,920
投資その他の資産	3,942,517	1年内償還予定地方債	1,792,842
流動資産	2,538,151	未払金	5,891
現金預金	352,670	賞与等引当金	143,186
未収金	16,523	負債の部 合計	18,794,478
短期貸付金	27,595	【純資産の部】	
基金	2,142,030	固定資産等形成分	76,643,192
徴収不能引当金	△ 668	余剰分(不足分)	△ 18,425,953
資産の部 合計	77,011,718	純資産の部 合計	58,217,240
		負債及び純資産の部 合計	77,011,718

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

<資産の主なもの>

■ 固定資産

・有形固定資産

事業用資産（庁舎、学校、
コミセンなど）
インフラ資産（道路、橋
りょう、公園など）

物品（50万円以上の備品、
車両など）

・その他

投資及び出資金、長期貸
付金、基金（財政調整基金、
減債基金を除く。）

■ 流動資産

・現金預金

・短期貸付金

・基金（財政調整基金、減債
基金）

資産の合計は約770億円となっています。土地・建物などの固定資産は約745億円、現金預金や基金の一部（財政調整基金・減債基金）などの流動資産が約25億円となっています。有形固定資産に係る減価償却が進んでいることから資産の合計は減少傾向にあります。

負債の合計は約188億円となっています。翌々年度以降に償還する地方債などの固定負債が約169億円、翌年度に償還する地方債などの流動負債が約19億円となっています。繰上償還の実施や新発債の抑制により地方債残高が減少していること、長期未払金が減少していることなどにより、負債の合計が減少しました。

資産と負債の差引である純資産は約582億円となっています。減価償却による資産の減が大きいため、純資産も減少傾向にあります。

※貸借対照表の資産と負債の差額は、企業では「資本」として取り扱われますが、国及び地方公共団体の場合、「資本」という概念がないため「純資産」と表現しています。

6 行政コスト計算書・純資産変動計算書（一般会計等財務書類の場合で説明）

行政コスト計算書は、1年間の本町の行政活動のうち、主に資産形成に結びつかない経常的な行政サービスに係るコスト（経常的な費用）と、その行政活動と直接の対価性のある使用料・手数料などの収入（経常的な収益）を対比させた財務書類です。

純資産変動計算書は、貸借対照表の純資産の部に計上されている各項目が、1年間でどのように変動したかを表す財務書類です。

■行政コスト計算書

（令和7年3月31日現在）

科目	金額
経常費用	17,818,869
業務費用	11,364,887
人件費	2,820,161
（職員給与費、賞与等引当金繰入額、退職手当引当金繰入金など）	
物件費等	8,402,995
（物件費、維持補修費、減価償却費など）	
その他の業務費用	141,732
（支払利息など）	
移転費用	6,453,982
補助金等	4,063,928
社会保障給付	1,616,617
他会計への繰出金	771,194
その他	2,244
経常収益	931,413
使用料及び手数料	295,631
その他	635,782
純経常行政コスト(△)	△ 16,887,456
臨時損失	-
災害復旧事業費	-
資産除売却損	-
投資損失引当金繰入額	-
臨時利益	28,024
資産売却益	23,830
その他	4,194
純行政コスト(△)	△ 16,859,432

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

行政コスト計算書では、行政サービスの提供により負担いただいた使用料及び手数料を「収益」として計算しています。費用から収益を差し引いた「純行政コスト」を見ることで、費用と負担の割合（＝受益者負担）を把握することができます。

また、純資産変動計算書では、「本年度差額」がプラスであると、現世代の負担によって将来世代も利用可能な資源を貯蓄したことを意味する一方、マイナスであると、将来世代が利用可能な資源を現世代が消費して便益を享受していることを表しています。

本町の令和6年度の行政サービスに係る経常的な費用は約178億円で、内訳は人件費や物件費、維持補修費、減価償却費、地方債の支払利息などの「業務費用」が約114億円、補助金や社会保障給付費、他会計への繰出金などの「移転費用」が約65億円です。補助金等の増により増加しています。

一方、使用料及び手数料、財産収入などの経常的な収益は約9億円で、「経常費用」から「経常収益」を差し引いた約169億円が「純経常行政コスト(△)」となります。

また、資産売却益などの「臨時利益」は約3千万円となります。

「純経常行政コスト(△)」に臨時損失を加え、臨時収益を差し引いた約169億円が「純行政コスト(△)」となり、町税や地方交付税、補助金などを充てて賄われていることとなります。

■純資産変動計算書

（令和7年3月31日現在）

（単位：千円）

科目	合計	固定資産等形成分	
		固定資産等形成分	余剰分(不足分)
前年度末純資産残高	59,792,430	78,902,840	△ 19,110,410
純行政コスト(△)	△ 16,859,432		△ 16,859,432
財源	15,284,242		15,284,242
税収等	11,097,181		11,097,181
国県等補助金	4,187,061		4,187,061
本年度差額	△ 1,575,191		△ 1,575,191
固定資産等の変動(内部変動)		△ 2,259,648	2,259,648
有形固定資産等の増加		1,733,478	△ 1,733,478
有形固定資産等の減少		△ 4,095,820	4,095,820
貸付金・基金等の増加		951,844	△ 951,844
貸付金・基金等の減少		△ 849,149	849,149
無償所管換等	-	-	-
その他	-	-	-
本年度純資産変動額	△ 1,575,191	△ 2,259,648	684,457
本年度末純資産残高	58,217,240	76,643,192	△ 18,425,953

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

純資産は、今までの負担によって形成された財産であり、将来の行政サービスに利用されるものですので、純資産が増額（減額）することは、将来の行政サービスの提供能力が増える（減る）ということを表しています。

前年度末（令和5年度末）純資産残高約598億円から令和6年度中に約16億円減額となり、本年度末（令和6年度末）純資産残高は約582億円となっています。道路新設改良や物品の取得などにより増加しているものの、減価償却による減が大きいため減少傾向にあります。

7 資金収支計算書（一般会計等財務書類の場合で説明）

資金収支計算書は、一会計年度中の現金等の資金の流れを業務活動、投資活動、財務活動の三つの活動に分けて表示した財務書類です。現金（キャッシュ）の流れ（フロー）を表したものであることから、「キャッシュ・フロー計算書」とも呼ばれています。

■資金収支計算書

（令和7年3月31日現在）

（単位：千円）

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	(1) 13,684,031
業務費用支出	7,230,049
移転費用支出	6,453,982
業務収入	(1) 15,589,483
税収等収入	11,092,238
国県等補助金収入	3,569,647
使用料及び手数料収入	295,284
その他の収入	632,315
臨時支出	(2) -
臨時収入	(2) -
業務活動収支	1,905,452
【投資活動収支】	
投資活動支出	(3) 3,035,321
公共施設等整備費支出	1,721,832
基金積立金支出	908,836
投資及び出資金支出	2,057
貸付金支出	402,595
投資活動収入	(3) 1,863,766
国県等補助金収入	617,414
基金取崩収入	804,725
貸付金元金回収収入	414,187
資産売却収入	27,440
投資活動収支	△ 1,171,554
【財務活動収支】	
財務活動支出	(4) 1,813,636
地方債償還支出	1,788,929
その他の支出	24,707
財務活動収入	(4) 1,191,240
地方債発行収入	1,191,240
その他の収入	-
財務活動収支	△ 622,396
本年度資金収支額	111,502
前年度末資金残高	241,168
本年度末資金残高	352,670

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

資金収支計算書では、活動を「業務」・「投資」・「財務」に分類し、1年間の資金の流れを表していますので、それぞれの収入の合計は、令和6年度一般会計決算の歳入合計から前年度からの繰越金を控除したものと一致します。**(1)+(2)+(3)+(4) = R6歳入18,885,657 - 繰越金241,168**

また、それぞれの支出の合計は、令和6年度一般会計決算の歳出合計に歳計剰余金処分による基金積立額を加えたものと一致します。**((1)+(2)+(3)+(4) = R6歳出18,132,988 + 基金積立額400,000)**

さらに、本年度末資金残高は、令和6年度一般会計決算の形式収支（歳入 - 歳出）から歳計剰余金処分による基金積立額を控除した額（令和7年度に繰り越すべき一般財源 + 令和7年度への純繰越金）と一致します。

(本年度末資金残高352,670 = R6歳入18,885,657 - R6歳出18,132,988 - 基金積立額400,000)

※ 各項目の金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

【業務活動収支】：経常的な行政活動に伴う資金収支を計上

- 業務支出…（業務費用支出）人件費、物件費（旅費、需用費など）、地方債の支払利息（移転費用支出）補助金や負担金、社会保障給付費、他会計への繰出金
- 業務収入…地方税、地方交付税、補助金収入、使用料・手数料等
- 臨時支出…災害復旧事業費など
- 臨時収入…災害復旧事業費に関連した補助金収入など

【投資活動収支】：資産形成活動に伴う資金収支を計上

- 投資活動支出…公共事業や施設整備等、基金積立、貸付金など
- 投資活動収入…補助金収入、基金取崩、貸付金元金回収など

【財務活動収支】：資金調達活動に伴う資金収支を計上

- 財務活動支出…地方債の償還
- 財務活動収入…地方債の発行

令和6年度の資金収支は、業務活動収支が約19億1千万円の黒字、投資活動収支が約11億7千万円の赤字、財務活動収支が約6億2千万円の赤字となり、合計で約1億1千万円の黒字となっています。

移転費用支出の減や税収等収入の増などにより、資金収支額が増加しています。

その結果、本年度末資金残高は約3億5千万円となっています。

8 財務書類の数値を用いた主な指標について ① 資産の状況

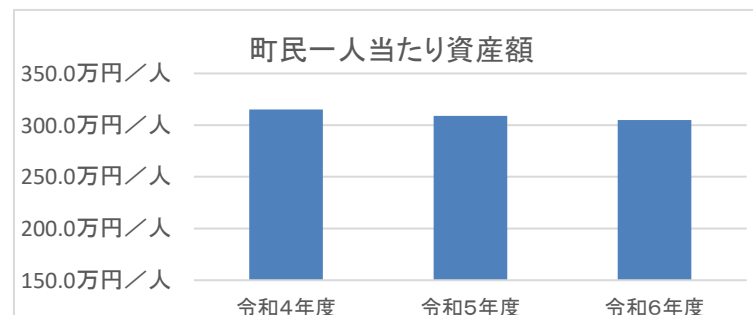
本町が作成した財務書類のデータ等による指標を分析することにより、本町の財政状況を多角的に分析することが可能となります。
※指標については、一般会計等財務書類の数値としています。

① 資産の状況

◆ 町民一人当たり資産額【資産合計÷人口(各年度1月1日)】

町民一人当たりどれくらいの資産があるのかを表します。

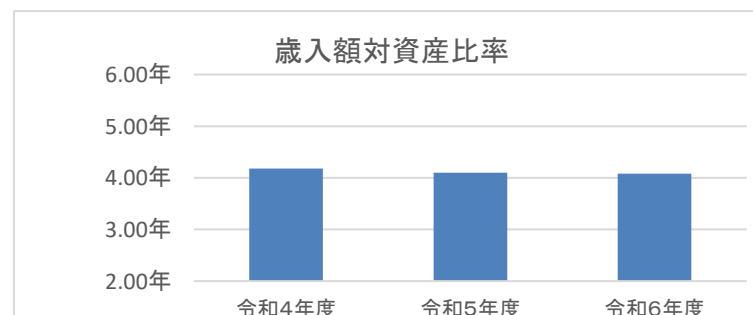
項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
資産合計(万円)	815億8532万円	791億6202万円	770億1172万円
人口	25,897人	25,617人	25,269人
町民一人当たり資産額	315.0万円/人	309.0万円/人	304.8万円/人



◆ 歳入額対資産比率【資産合計÷歳入総額】

これまで形成された資産が当該年度歳入の何年分に相当するかを表します。

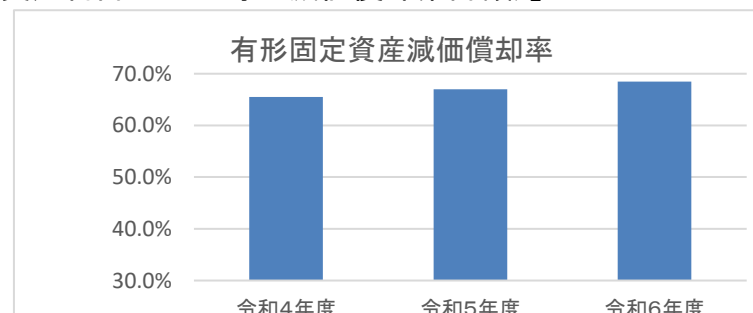
項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
資産合計(百万円)	815億85百万円	791億62百万円	770億12百万円
歳入総額(百万円)	195億14百万円	193億08百万円	188億86百万円
歳入額対資産比率	4.18年	4.10年	4.08年



◆ 有形固定資産減価償却率(資産老朽化比率)【減価償却累計額÷(有形固定資産合計-土地等+減価償却累計額)】

有形固定資産の減価償却がどの程度進んでいるのかを表します。

項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
減価償却累計額(百万円)	1247億91百万円	1288億92百万円	1329億78百万円
有形固定資産合計-土地等+減価償却累計額(百万円)	1905億64百万円	1924億58百万円	1941億87百万円
有形固定資産減価償却率	65.5%	67.0%	68.5%



<分析>

町民一人当たり資産額及び歳入額対資産比率は、合併前にそれぞれの旧町村において整備した公共施設が多くあるため同規模の他自治体と比較し高い傾向にあります。近年は公共施設の老朽化により減少傾向にあります。また、有形固定資産減価償却率についても老朽化の進んでいる公共施設等が多くあることから増加傾向にあります。

将来の公共施設等の修繕や更新等に係る財政負担を軽減するため、幕別町公共施設等総合管理計画に基づき、中長期的な視点から計画的に適切な施設の維持・管理に努めていきます。

8 財務書類の数値を用いた主な指標について

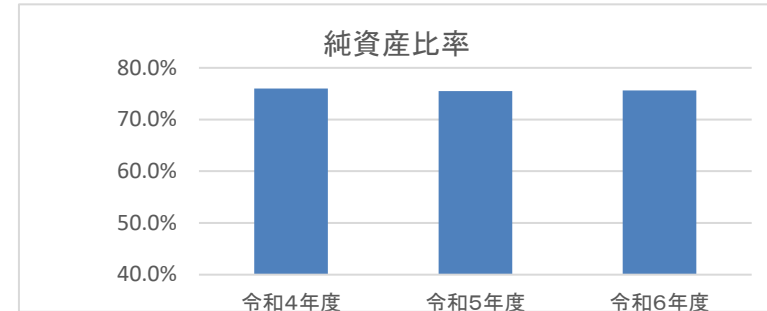
- ② 資産と負債の比率
- ③ 行政コストの状況

② 資産と負債の比率

◆ 純資産比率【純資産÷総資産】

資産のうち返済義務のない純資産がどれくらいあるかを表します。

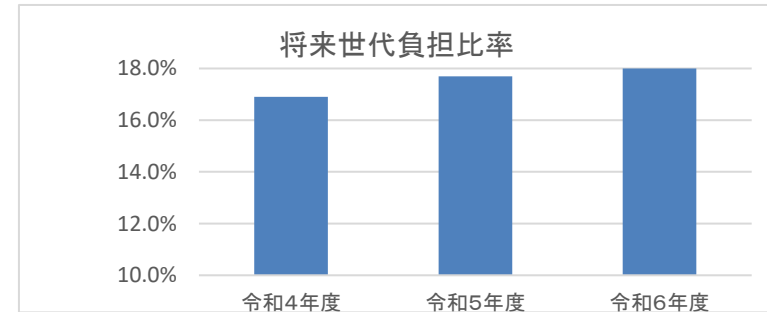
項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
純資産(百万円)	619億97百万円	597億92百万円	582億17百万円
総資産(百万円)	815億85百万円	791億62百万円	770億12百万円
純資産比率	76.0%	75.5%	75.6%



◆ 将来世代負担比率【地方債残高÷有形・無形固定資産合計】

これまでの資産形成に対して、将来世代の負担がどれくらいあるかを表します。

項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
地方債残高(百万円)	127億24百万円	128億66百万円	127億20百万円
有形・無形固定資産合計(百万円)	751億07百万円	728億93百万円	705億31百万円
将来世代負担比率	16.9%	17.7%	18.0%



※地方債残高は臨時財政対策債及び減収補てん債の地方債残高を除いた額

<分析>

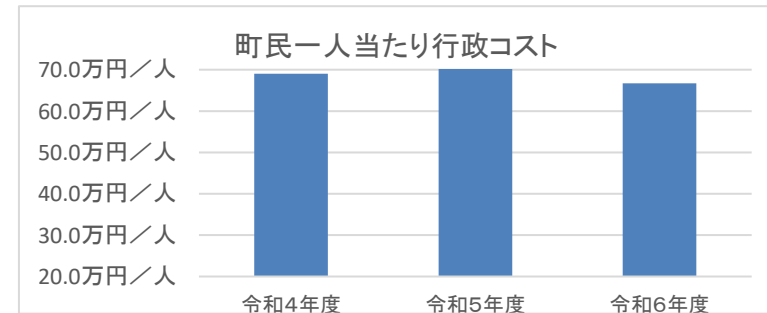
純資産比率及び将来世代負担比率は同程度で推移しています。今後も、町有施設の老朽化に伴う更新等のため、多額の費用が見込まれるため、将来を見据えた健全な財政運営に努めていきます。

③ 行政コストの状況

◆ 町民一人当たり行政コスト(万円)【純行政コスト÷人口(各年度1月1日)】

町民一人当たりどれくらいの経常的な行政コストがかかっているのかを表します。

項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
純行政コスト(万円)	172億0497万円	181億9269万円	168億5943万円
人口	25,897人	25,617人	25,269人
町民一人当たり行政コスト	69.0万円/人	71.0万円/人	66.7万円/人



<分析>

町民一人当たり行政コストは補助金等や他会計への繰出金の減などにより、令和6年度は減少しています。今後も事務事業の見直しを行い、総体的な経費節減に努めていきます。

8 財務書類の数値を用いた主な指標について

④ 負債の状況

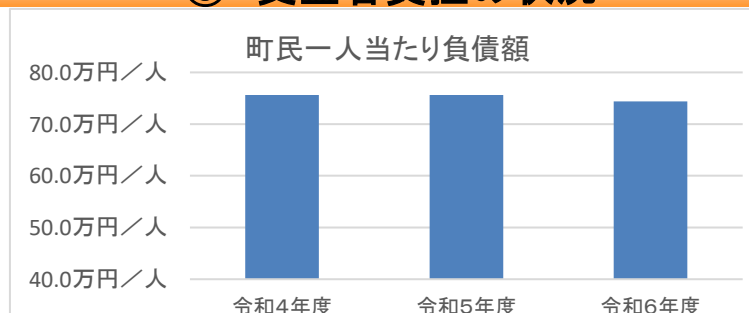
⑤ 受益者負担の状況

④ 負債の状況

◆ 町民一人当たり負債額(万円)【負債合計÷人口(各年度1月1日)】

町民一人当たりどれだけの負債があるのかを表します。

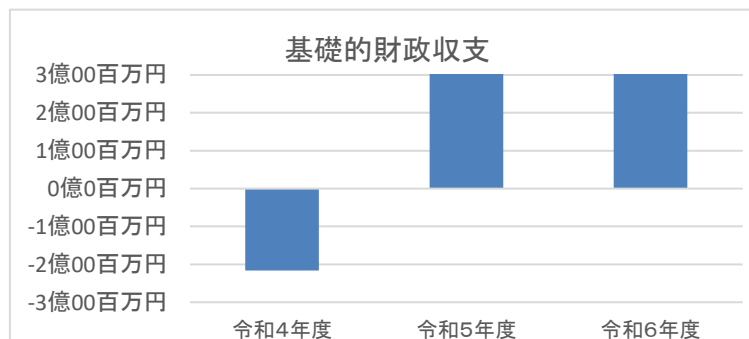
項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
負債合計(万円)	195億8850万円	193億6959万円	187億9448万円
人口	25,897人	25,617人	25,269人
町民一人当たり負債額	75.6万円/人	75.6万円/人	74.4万円/人



◆ 基礎的財政収支【業務活動収支+投資活動収支】

行政に係る経費を、地方債の返済と借入を除いてどれだけ賄えているかを表します。

項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
業務活動収支(百万円)	11億79百万円	14億45百万円	19億05百万円
投資活動収支(百万円)	-13億95百万円	-11億33百万円	-11億72百万円
基礎的財政収支	-2億16百万円	3億12百万円	7億33百万円



※支払利息支出及び基金に係る収入支出を除いた額

<分析>

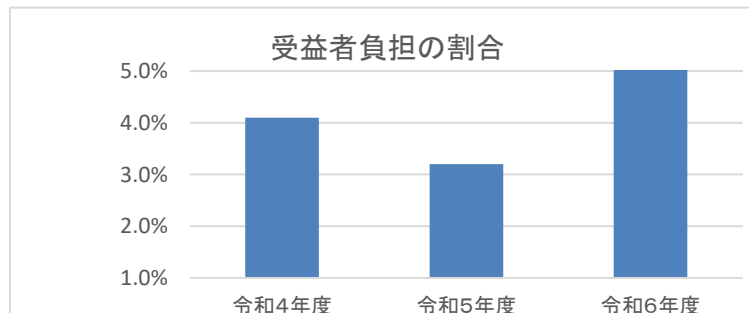
町民一人当たり負債額は、地方債発行額が減少していることなどにより、令和6年度は減少しています。なお、地方債や基金に係る収入支出を除いて計算されるため、投資活動収支は赤字ですが、業務活動収支を加えると黒字となっています。今後については、繰上償還の実施や新発債の抑制などを推進し、健全な財政運営に努めていきます。

⑤ 受益者負担の状況

◆ 受益者負担の割合【経常収益÷経常費用】

行政サービスに対して使用料・手数料等の負担がどのくらいあるかを表します。

項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
経常収益(百万円)	7億38百万円	6億01百万円	9億31百万円
経常費用(百万円)	179億57百万円	188億21百万円	178億19百万円
受益者負担の割合	4.1%	3.2%	5.2%



<分析>

受益者負担の割合は低く推移しており、行政サービス提供に対する直接的な負担の割合は比較的低い傾向が見られます。今後については、公共施設等の使用料及び手数料の定期的な見直しなどにより、受益者負担の適正化に努めていきます。